

# 埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7  
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>  
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

## 第49回 埼玉県医学検査学会のお知らせ

開催方式：ハイブリッド

(現地開催+Webオンデマンド配信)

開催日：令和3年12月5日(日)

会場：大宮ソニックシティ

テーマ：前進

サブテーマ：～新・時代への発信～



学会公式LINE  
アカウント

### 「学会参加事前登録について」

第49回 埼玉県医学検査学会  
会計部 小島 徳子

長く感じた梅雨も明けて夏本番となり、オリンピックが開催いたしました。実行委員会も12月5日の学会に向けて拍車がかかっています。

今学会は大宮ソニックシティでの現地開催とWebサイトでのオンデマンド配信を併用したハイブリッド開催で、どちらも事前登録が必要となります。そして事前登録の際に、学会参加費のお支払いができる予定で準備しています。

事前登録期間は、現地+Web参加の場合は2021年11月1日から11月28日まで、Web参加のみの場合は11月1日から12月31日となります。事前登録の手続きは、第49回埼玉県医学検査学会ホームページ (URL : <http://www.sairingi.com/academy/49ken/index.html>) からできるようになります。

また、学会参加費は、クレジットカード等で振り込みができるように準備しています。

会費は例年通り、埼臨技会員(日臨技会員)：2,000円、賛助会員：2,000円、非会員(Webのみ)：5,000円です。

まだいくつかの検討事項もありますが、決まり次第「だより」にて報告しますので、よろしくお願いたします。



の疾患に対する治療法や管理方法など分かりやすく説明されており、また、腎・尿路系の解剖や機能から病態を考える機会はあまりないため、今後の業務に活かしていきたい。

(文責：小針奈穂美)

## テーマ 末梢血液像について学ぼう 標本作製から形態観察までのいろは

主催 血液検査研究班

実施日時：令和3年6月16日 19時00分～20時30分

会 場：Web開催 点数：専門教科－20点

講 師：中山 洋一（アボットジャパン合同会社 ヘマトロジー推進部 学術担当）

参加人数：会員139名

出席した研究班班員：中山智史 原誠則 網野育雄 神成千晴 軍司雅代 澁川絵美 星聖子  
堀内雄太 堀口大介 加藤鉄平

### 研修内容・感想など

今回は中山氏により、標本作製から形態観察までのいろはについての講演があった。標本作製では染色の原理・歴史から始まり、各染色液の特徴、染色の際のポイントなど、形態観察では核や細胞質がどのような色調に染まり、それを鑑別していく際のコツなどをお話された。

塗抹標本は作成後、染色の際の固定不良を防ぐために十分に乾燥を行う必要がある。日本では、ドライヤー等を使い直ちに冷風乾燥するが、欧米では、湿度が低い自然乾燥が一般的なようである。標本の固定はしっかりと行う必要があり、顆粒の染色が良好なライトまたはメイ・グリュンワルド染色液で行う。その後、核の染色が良好なギムザ染色液に移行するが、重要なのは緩衝液のpHであり、至適pH(6.4～6.8)にて使用しなければならない。緩衝液は色素のイオン化に必須であり、色調を整える作用がある。また、ギムザ希釈液を調製する際の注意点として、ギムザ原液はしずかに少しずつ注ぎ、軽く攪拌しなければならない。

染色の後は長すぎず短すぎず、適度な水洗をして乾燥すれば、標本が完成する。染色不良があると、好中球の脱顆粒状態が鑑別できないなど、異常所見の判定にも影響するため、まずは適切な血液塗抹標本作製ができるよう、各施設で環境を整えることが重要であると感じた。

形態観察では、正常な細胞の外観(大きさ、形状)、細胞質(色調、顆粒、空胞、封入体など)、核(N/C比、クロマチン構造、核小体)について解説があり、実際の細胞ではどのように見えるか写真で示された。リンパ球と単球は鑑別に迷うこともあるが、迷った時は細胞質で鑑別すると良いとのアドバイスであった。リンパ球は細胞質に透明感があり、単球はすりガラス状でくすんだ感じに見える。顆粒球系幼若細胞の分類は、日本検査血液学会の分類基準に基づき、細胞の連続画像を見ながら解説された。細胞鑑別のコツとして、判断理由を明確にすること、迷ったら成熟段階を一段落とすこと、たくさんの標本を観察し、正常細胞を体に染み込ませること等、説明があった。

きれいな塗抹標本の作製がいかにか細胞鑑別に重要であることを再認識し、細胞鑑別では判断理由となる根拠を明確にすることの必要性と、その根拠を裏付ける知識の習得が重要であると感じた講演であった。

(文責：澁川絵美)

## テーマ 二級試験にも使える知識

主催 臨床化学検査研究班

実施日時：令和3年6月17日 18時30分～20時00分

会 場：Web開催 点数：専門教科－20点

講 師：羽田 幸加（松本市医師会医療センター）

小林 麻里子（北埼玉医師会立メディカルセンター）

参加人数：会員141名

出席した研究班班員：永井謙一 北川裕太郎 小林麻里子 羽田幸加 石川純也 巖崎達矢

大谷真澄 笹原美里

研修内容・感想など

二級試験にも使える知識として、小林氏より「基本的な計算」を、羽田氏より「分析に必要な知識と基本操作」の講演があった。

「基本的な計算」では、筆記試験・計算問題の傾向として、濃度計算・終濃度などの調整系、Lambert-Beerの法則、回収率・感度特異度・浸透圧・pHについて詳細に言葉の意味から例題を用いての解説まで行われた。その中で、Lambert-Beerの法則関連として、1ポイント法の計算と2ポイント法の計算、ミカエリス・メンテンの式においても解説がされ、実際の吸光度プロットから演算する方法が内容として組み込まれた。

実技試験の基本的対策として検量線作成準備と作成、実際に作成した検量線を用いて吸光度から試料の濃度（活性）を求める流れの説明があった。実技試験では使用する試験管やチップの数が決まっているため計画的に測定する必要があるなどのポイントも挙げられた。

臨床検査技師として現場で実務を行っているなかで、意識が薄れがちになるが重要なポイントもたくさん挙げられ、実際に分析装置からの吸光度を用いて計算を行い測定値と照らし合わせ計算式になれることは二級試験対策だけでなく、日常業務内で異常反応があった際の原因分析に役立てることができる内容であった。

「分析に必要な知識と基本操作」では、分析技術の基本操作としてホールピペット・メスピペット・マイクロピペットなどの使用方法を詳細に解説された。特にマイクロピペットの操作方法ではピペッティング方法の種類とポイントとして、プレウェッティングとピペットを持つ際の姿勢までが分注精度に関係するという実際の経験も交えて紹介された。

分析に必要な知識としては測定原理、試薬組成・特性、反応過程、臨床的意義が挙げられた。測定原理は、その方法によっては試料中に含まれる物質の影響を受ける場合もあるため必要な知識であり、関連する項目を知ることにより患者背景を理解することができるものがある。過去問題では、測定原理が複数ある項目が問われることがあるため、自施設での採用原理だけでなく広く知識を持つ必要がある。

今回の講演では、試験対策としてポイントを分かりやすく提示され11月に迫る試験に役立つ情報が多くあった。また、日常業務においても必要な知識と情報が多くあり、自動化が進んでいる臨床化学ではあるが基本的な知識があることで臨床からの問い合わせにも対応することができるかと改めて考えた。また、全項目が自動化ではないため、用手法での測定時に測定者間の差も少なくできるように手技の統一化としても貴重な勉強の場となった。

(文責：笹原美里)

テーマ **腎臓が好きになる② ～ 腎機能検査について～**

主催 一般検査研究班

実施日時：令和3年6月24日 19時00分～20時00分

会場：Web開催 点数：専門教科ー20点

講師：渡辺 浩（シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社  
DX事業部LD営業本部 UAスペシャリストグループ）

参加人数：会員164名

出席した研究班班員：藤村和夫 室谷明子 小関紀之 柿沼智史 佐々木菜緒 渡邊裕樹  
小針奈穂美 中川禎己

研修内容・感想など

腎臓が好きになる第二弾ということで、渡辺氏より腎機能検査について講演があった。

はじめに、従来より測定されてきた $\beta$ 2-MG・ $\alpha$ 1-MG・尿中NAGなどの尿中バイオマーカーと、近年測定されるようになったIL-18・KIM-1・L-FABP・NGALなどの尿中バイオマーカーを、各臨床的意義に加え、診療報酬点数を含めて詳しく説明をされていた。中でもL-FABP・NGALはAKI診療ガイドライン2016にも記載されるほど注目の尿中バイオマーカーであり、早期AKIの発見にはとても有効なマーカーであると理解できた。



次に、尿中アルブミン検査の意義について説明が行われた。腎臓の血管（小葉間動脈・傍髄質系球体輸入細動脈）から微量アルブミン尿が漏れ出るときは、血管系構造（直線構造）の関連性から心臓や目、脳血管にも障害が出現しているという「strain vessel仮説」を、イラストを踏まえて詳しく解説され、腎臓が悪い患者に心血管イベントが多い理由を初めて理解することができた。

最後に、クレアチニン補正について説明がされた。CKD重症度分類や糖尿病性腎症病期分類にはクレアチニンで補正された尿中蛋白濃度やアルブミン濃度が記載されており、これは濃縮尿や希釈尿に対する検査値の影響を一定にする意義がある。クレアチニン補正の重要性を改めて確認することが出来た。

今回の研修会を通して、尿中バイオマーカーを軸に様々なデータを活用することで患者背景を色濃くし、ルーチンに活かすことの重要性を改めて見直す講演となった。

(文責：中川禎己)

## テーマ 2021年CLSIドキュメントの主な変更点

主催 微生物検査研究班

実施日時：令和3年6月25日 18時30分～19時30分

会場：Web開催 点数：専門教科-20点

講師：原 みゆき（ベックマン・コールター株式会社）

参加人数：会員52名

出席した研究班班員：渡辺典之 酒井利育 岸井こずゑ 小棚雅寛 千葉明日香 佐々木真一  
伊波嵩之 今井美美

研修内容・感想など

今回は原氏より「2021年CLSIドキュメントの主な変更点」について講演があった。

*Staphylococcus*属ではCNSのオキサシリンブレイクポイントに変更があり、*S. lugdunensis*を除くCNSでブレイクポイントが統一となった。今回の変更により*S. warneri*などでは*mecA*陰性株によるメジャーエラーの減少が期待されるとのことであった。また質量分析装置の普及により*S. argenteus*が同定されるようになったが、本菌はコアグラゼ陽性であり*mecA*保有株やPVL産生株が報告されている。*S. argenteus*と同定・報告した場合、臨床医が聞いたことのない菌種名のためにCNSだと誤認し、その病原性が過小評価される可能性があることから*S. aureus complex*として報告することを推奨する旨のコメントが追加された。*S. argenteus*は自動同定感受性装置や同定キットでは*S. aureus*として判定されるが、質量分析装置では同定可能である。質量分析装置で同定を実施している施設ではそのまま菌名報告しないよう注意が必要である。

*Enterobacteriales*では血液培養陽性ボトルからの直接ディスク法が新たに追加となった。対象薬剤はABPC、AZT、CAZ、CTRX、TOB、ST合剤の6薬剤で16～18時間培養後に判定を行う。EUCASTでは一足先に血液培養ボトルから直接薬剤感受性試験を行うRAST (rapid antimicrobial susceptibility testing) を推奨、手順が公開されている。こちらでは菌種は限られるものの、対象薬剤が多く判定までの時間も4～8時間と迅速に結果報告を行うことが可能である。CLSIも来年さらに薬剤を追加予定とのことだが、判定時間についても迅速化を期待したい。

そのほかの変更点としてカルバペネマーゼ確認試験の比較表の追加、*Shigella*属のAZMブレイクポイント追加、CSFからの分離菌における薬剤感受性結果の報告制限追加、そして“I<sup>+</sup>”について尿以外の抗菌薬が集積する部位への適用が削除され尿検体からの分離株のみへの適用となったとの報告があった。

CLSIのドキュメントは毎年更新されている。最新版はホームページでも公開されており、誰でも閲覧可能である。今回のように研修会で要点を確認してから実際のドキュメントを見ると、内容を理解しやすくなるのではないかと感じた。

(文責：今井美美)

## テーマ **浦和医師会PCR検査センターの立ち上げから現状報告まで** ～ 検体採取で頼りになる検査技師になるためには ～

主催 公衆衛生検査研究班

実施日時：令和3年7月2日 18時30分～19時30分

会 場：Web開催 点数：専門教科－20点

講 師：神山 清志（一般社団法人 浦和医師会メディカルセンター）

参加人数：会員103名

出席した研究班班員：富井貴之 立塚梓 吉田翔平 田崎恵 鈴木由美子

研修内容・感想など

今回は、神山氏より、浦和医師会PCR検査センターの立ち上げから現状の報告と、検体採取で頼りになる臨床検査技師になるためにどのように臨むべきかについて講演があった。

はじめに新型コロナウイルスの感染経路や名称の説明、生活様式の変化などについて話があり、世界中に広がりを見せた新型コロナウイルス感染症は、さいたま市でも増加傾向になり、浦和医師会でもPCR検査センターを2020年5月14日に開設することになったとのこと。開設当初は、1日5名の受け入れであったが段階的に増加し18名まで受け入れを可能にした。自家用車、徒歩、自転車などで来訪する患者を工夫して誘導し、検体採取（当日担当医師）、PCR検査（2020年11月より自施設にて実施）を行い、当日、結果報告できるようにした。

2020年5月14日～2021年4月30日の浦和医師会とさいたま市の陽性率を比較すると浦和医師会6.43%、さいたま市4.88%であり、男女別では、男性の陽性率が浦和医師会71%、さいたま市55%と女性より高値であった。年代別陽性数は、浦和医師会では30代、さいたま市では20代が増加傾向であった。

年末年始・GWの長期休暇では、休日診療所に臨床検査技師を派遣し、検体採取とイムノクロマト法によるインフルエンザ・新型コロナウイルス感染症の同時検査を実施した。最短15分で検査結果を判定し、陽性者はその場で医師が発生届を記入するため、迅速な対応が可能となった。検査結果は、2020年12月31日の陽性率が29.5%で最も高値であり、2回目の緊急事態宣言（2021年1月8日）が発令される前であったことが分かる。検体採取を臨床検査技師が行う際は、飛沫を暴露しないよう注意し、スワブを下鼻甲介の下を通すことが大事であり、トレーニング方法として自分自身でスワブを鼻に刺して感覚をつかみ、鏡で角度を確認すると話されていた。

最後に国内でワクチン接種を迅速に行うため、臨床検査技師がワクチン接種の打ち手に加わることが厚生労働省で了承されたことに触れ、臨床検査技師として何ができるか？何をやるべきか？何が望まれるか？を考えながら業務拡大に臨むことが重要であると述べられていた。

今回は、PCR検査センターの立ち上げについて、実際に携わっている我々臨床検査技師が「感染対策の徹底」、「検体採取の正確性」、「検査の精密性」、「迅速な結果報告」の重要性を再度見直すことができ、今後、臨床検査技師の多様性が求められる講演であった。

（文責：鈴木由美子）

## テーマ **臨床化学と造影剤**

主催 臨床化学検査研究班

実施日時：令和3年7月8日 18時00分～19時00分

会 場：Web開催 点数：専門教科－20点

講 師：安東 大輔（シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社  
アッセイマーケティンググループ）

参加人数：会員117名 賛助会員3名

出席した研究班班員：永井謙一 北川裕太朗 小林麻里子 羽田幸加 石川純也 巖崎達矢  
笹原美里

## 研修内容・感想など

「臨床化学と造影剤」というタイトルで、安東氏より造影剤の基礎から臨床化学に関係するところまでの講演があった。

造影剤はX線検査、MRI検査、超音波検査などに用いられ、X線検査ではバリウム製剤や、ヨード製剤、MRI検査では、T1強調造影剤、T2強調造影剤などがあり、それぞれイオン性・非イオン性など様々な種類があることを話された。それらの種類により、浸透圧や添加剤が異なり、添加剤に含有される電解質成分をそのまま測りこんだり、キレート剤のような添加剤が反応系に影響を与える可能性があるということであった。

造影剤の体内動態としては主に腎排泄で、副作用として、造影剤腎症や腎性全身性線維症があり、AKIの重症度分類と合わせ、造影剤投与前後のクレアチニン測定的重要性が理解できる内容であった。

また、eGFRの計算式、値も例を示し解説され、42歳男性のクレアチニン値が0.7mg/dLから1.2mg/dLに変化すると、eGFR値は98ml/min/1.73m<sup>2</sup>から54ml/min/1.73m<sup>2</sup>まで下がってしまうため、クレアチニン測定の正確度があらためて重要だと認識できた。

今回の講演を拝聴し、造影剤と一口に言っても様々な種類があり、自施設で使用している造影剤を調べることがその影響を知る第一歩だと感じた。検査値が短期間で大きく変化するのは薬剤と処置であり、それらを知っておくことで異常値が出現した時の対応や報告の仕方が変わってくる。そのため臨床検査技師が日常で行っていない業務であっても、検査値と結び付けて学ぶことが重要だと感じた研修会であった。

(文責：永井謙一)

テーマ **これからの病理検査を考える AI病理診断の試みと今後の展望**

主催 病理検査研究班

実施日時：令和3年7月14日 18時00分～19時00分

会場：Web開催 点数：専門教科ー20点

講師：松嶋 惇 先生（獨協医科大学埼玉医療センター 病理診断科）

参加人数：会員102名 学生1名

出席した研究班班員：岡村卓哉 関口久男 森田繁 荻真里子 細沼佑介 高橋俊介  
小島朋子 三鍋慎也

## 研修内容・感想など

昨今、医療技術の進歩も目覚ましいが、「人工知能（Artificial Intelligence : AI）」に関しても、その用語が使われてから50年余りで驚異的な進化を遂げている。そして、このAI技術を医療の分野へ導入することも試みられており、今回、松嶋氏より「これからの病理検査を考える」をテーマに講演があった。

松嶋氏の研究チームは、AIを用いた胃癌のリンパ節転移巣の検出を試みられてきたとのことで、診断精度も向上してきており、病理診断への応用が着実に進んでいることが感じられた。一方でAI診断の責任の所在や、説明性（診断の根拠）の難しさ等も課題として挙げられた。

参加者からの質疑では、「HEの染色性によるAI診断への影響に関して」や「染色を行う際の注意点」等が挙げられた。HEの染色性による診断への影響はあるとのことで、また、剥がれや重なり等も影響があるとのことであった。臨床検査技師としては、AIの時代になっても美しい標本を作ることが重要であり、また、より均質な標準化された標本作製も必要になってくるのではないかと思われた。

今回は他県からの参加者も多く、興味深いテーマであることがうかがわれた。今後のAI病理診断の発展を見守りつつ、また、それに見合う標本作製技術の向上を目指すことが病理検査技師に課せられた責務であると考えられた。

(文責：三鍋慎也)

**令和3年度  
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会  
第4回 理事会議事録**

日時：令和3年7月8日(木) 19時00分より

場所：埼臨技事務所  
さいたま市浦和区領家7-14-7

議題：Ⅰ. 行動報告   Ⅱ. 報告事項  
Ⅲ. 承認事項   Ⅳ. 議題

出席：現地にて出席  
(理事) 神山 矢作 松岡 猪浦 濱本  
長澤 山口 神嶋 菊池 松尾  
伊藤 笹野 松寄 塚原 石井  
神戸 阿部 長谷川

(監事) 遠藤  
Zoomにて出席  
(理事) 飯野 久保田  
(監事) 細谷

欠席：(理事) 小山 長岡

本日の理事会の出席者は22名であった。理事の出席者は20名で、現在数22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、神山清志会長が務めることとなった。

**Ⅰ. 行動報告 (令和3年6月3日～令和3年7月7日)**

- 6月3日(木) 令和3年度第3回理事会：  
神山、矢作、松岡、猪浦、濱本、長澤、菊池、神嶋、松尾、伊藤、笹野、塚原、松寄、石井、神戸、阿部、長岡、久保田、長谷川、飯野、遠藤、細谷
- 6月5日(土) 令和3年度事業部会：矢作、伊藤、笹野、塚原、松寄
- 6月5日(土) 臨床検査技師養成校連絡協議会会議：神山、矢作、伊藤、塚原、長澤
- 6月9日(水) 日臨技認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師制度審議会：神山
- 6月9日(水) 令和3年度第1回青年部委員会：濱本、神戸
- 6月10日(木) 令和3年度埼臨技定時会員総会：神山、矢作、松岡、猪浦、濱本、長澤、山口、菊池、神嶋、松尾、

- 伊藤、笹野、塚原、松寄、石井、神戸、阿部、久保田、長谷川、飯野、遠藤、細谷
- 6月10日(木) 第49回埼玉県医学検査学会臨時実行委員会：神嶋
- 6月14日(月) 日臨技ワクチン接種説明会 (Web)：矢作
- 6月15日(火) 日臨技ワクチン接種説明会 (Web)：松岡、猪浦
- 6月16日(水) 日臨技タスクシフト関連会議：神山
- 6月17日(木) 人間総合科学大学講義打合せ：神山
- 6月18日(金) 第49回埼玉県医学検査学会実行委員会：神嶋、飯野
- 6月21日(月) 埼玉県看護協会訪問：神山、猪浦
- 6月21日(月) 自治医大さいたま医療センター辻仲先生へ訪問：神山、猪浦、松寄
- 6月21日(月) 法務局へ登記申請：神山、長澤
- 6月21日(月) 公益インフォメーション確認作業：神山、濱本、長澤、石井
- 6月22日(火) 日臨技支部長連絡会議：神山
- 6月23日(水) 表彰選考委員会：神山、矢作、松岡、猪浦、小山、濱本、長澤
- 6月25日(金) 日臨技令和3年度定時会員総会における資格審査委員会：矢作
- 6月26日(土) 日臨技令和3年度定時会員総会：神山、矢作、小山
- 6月30日(水) 日本医療科学大学講義：神山
- 7月1日(木) 令和3年度第1回検査室管理運営委員会：矢作、伊藤、笹野、菊池、塚原
- 7月1日(木) 令和3年度第1回埼玉県臨床検査精度管理調査委員会：山口、長岡、松岡、神山
- 7月2日(金) 人間総合科学大学講義：神山
- 7月5日(月) 生涯教育プログラム登録作業：長谷川

**Ⅱ. 報告事項**

**1 事務局**

- 1) 6月8日(火) 令和3年度公衆衛生事業功労者表彰について埼玉県に推薦書を提出した。
- 2) 6月21日(月) タスクシフト実技講習会の打合せのため、埼玉県看護協会と自治医大さいたま医療センター辻仲先生へ訪問した。



- (別紙資料1、2)
- 3) 6月21日(月)法務局へ法人の登記申請を行った。
  - 4) 第1回タスクシフト実技講習会を9月12日(日)東武医学技術専門学校で開催する。10月～3月開催分については現在調整中。
  - 5) 6月23日(水)表彰選考委員会を開催した。(別紙資料3)
  - 6) 6月24日(木)蕨市健康祭り実行委員会へ書面評決を提出した。
  - 7) 6月29日(火)第14回1都2県臨床化学研究班合同研修会共催依頼を承認した。
  - 8) 6月30日(水)公益インフォメーションに令和2年度事業報告を提出した。
  - 9) 6月30日(水)令和3年度日本公衆衛生協会長表彰について埼玉県に推薦書を提出した。
- 2 総務部**
- 1) 7月15日(木)埼臨技だより506号発行予定
  - 2) 6月9日(水)第1回青年部委員会(Web会議)を開催した。(別紙資料4)
  - 3) 令和3年度技師会名簿を作成中。今回より連絡網は廃止とした。
- 3 事業部**
- 1) 6月5日(土)事業部会議を実施した。(別紙資料5)
  - 2) 6月5日(土)臨床検査技師養成校連絡協議会会議を実施した。(別紙資料6)
  - 3) 7月1日(木)検査室管理運営委員会会議を実施した。(別紙資料12)
- 4 学術部**
- 1) 7月15日(木)埼臨技会誌Vol.68 No.1 2021が発行予定
  - 2) 第1回編集委員会(メール会議)を5月18日から6月1日の間に断続的に開催した。(別紙資料7)
  - 3) 6月11日の一般検査研究班、6月16日の血液検査研究班各研修会にて通信障害と思われる事例があった。一般研修会は、6月22、23日に同じ内容で再開催を行った。
  - 4) Web研修会に関する生涯教育履修認定に関する指針を作成した。研究班、会員施設への文書発送、HP掲載にて周知する。(別紙資料8)
  - 5) Web研修会に関する賛助会員等の参加申し込み方法の案内を作成した。研究班、会員施設への文書発送、HP掲載にて周知する。(別紙資料9)
- 6) 6月25日(金)研究班長に研究班運営マニュアルを送付した。
  - 7) 7月5日(月)生涯教育プログラム8月・9月分の行事登録(日臨技システム)をおこなった。
- 5 精度保証部** 特になし
- 6 会計部**
- 1) 令和3年度正会員費71名355,000円、入金金59名分59,000円、再入金金1名分1,000円、合計415,000円の入金があった。
  - 2) 石井印刷へ、埼臨技だより505号印刷代117,645円、料金受取人払郵便長3印刷代59,125円、封筒長3印刷代9,240円を支払った。
- 7 精度管理委員会**
- 1) 7月1日(木)令和3年度第1回埼玉県臨床検査精度管理調査委員会を開催した。
  - 2) 埼玉県医師会精度管理調査試料発送作業を9月4日(土)に実施予定。
- 8 一都八県会長会議** 特になし
- 9 日臨技関甲信支部** 特になし
- 10 日臨技**
- 1) 6月26日(土)日臨技定時会員総会が開催された。埼玉県からの議決権行使状況は71.5%であった。
- 11 第49回埼玉県医学検査学会**
- 1) 6月10日(木)第49回埼玉県医学検査学会臨時実行委員会を開催した。(別紙資料10)
  - 2) 6月18日(金)第49回埼玉県医学検査学会第9回実行委員会を開催した。(別紙資料11)
- Ⅲ. 承認事項**
- 1 事務局**
- 1) 会員動向(令和3年度分)  
令和3年7月1日現在  
会員数 3,327名[令和2年度会員数3,214名]  
(新入会員 206名)  
賛助会員 70社[令和2年度 78社]  
承認された。
- 2 総務部** 特になし
- 3 事業部** 特になし
- 4 学術部** 特になし
- 5 精度保証部** 特になし
- 6 会計部** 特になし
- 7 精度管理委員会** 特になし

8 第49回埼玉県医学検査学会

1) 第49回埼玉県医学検査学会からの上程事項について (別紙資料12)

上記の件について、神嶋敏子理事より発言があり、審議の結果、承認された。尚、JAMTISからの一斉メール発信については埼臨技事務局発信とする。

より発言があり、審議の結果、事務員への夏季賞与の支給について可決された。

2 総務部 特になし

3 事業部 特になし

4 学術部 特になし

5 精度保証部 特になし

6 会計部 特になし

IV. 議題

1 事務局

1) 事務員への夏季賞与について

上記の件について、濱本隆明事務局次長

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。



令和3年度 会員名簿について

令和3年5月31日現在の日臨技登録者情報を基にCDにて作成いたしました。

このCD名簿にはコピーガード、PWが付いておりますが、取り扱いには十分注意してください。

また、今年度より、地区別連絡網の掲載を廃止いたしました。緊急連絡が必要な場合、日臨技登録者情報に基づき、施設責任者へ一斉メールにて対応いたします。

あ と が き

先日職場で盛り上がった心理テストについて、会員の皆様に紹介いたします。

「貴方は動物達(猿・虎・牛・馬)を連れて旅をしていますが、お金が足りなくなったので仕方なく一頭ずつ手放していくことになりました。さて・・・どれから手放していきますか」

興味のある方は、自分だったら何を先に手放し、最後に手放すのはどれか、思い描いてみてください。

<結果>手放すものが後になるほど、自分にとって大事なものだそうです。猿は友人、虎はプライド、牛は食事、馬は仕事。

職場では、最後に手放す動物が牛と馬で分かれしました。私は、目的地に早く行かれるとの理由から馬を選びました。馬は仕事…私にとってそうであったのか…。

「過去はもう変えることはできないが、未来は自分次第で変わる。」日常を大切に仕事研鑽に励んでいこうと、改めて思いました。

(伊藤 記)

